四月の購入図書

◇一般図書◇

雲の肖像　大岡昇平
くれなゐ　渡辺淳一
幸福の絵　佐藤愛子
監　督　海老沢泰久
中国故事成語辞典　加藤常賢〔共〕著
日本文壇史　伊藤　整
このこらと生きて　岡田道智〔共〕著
世界考古学事典(上)　平凡社
〃　(下)　〃
巫女の文化　倉塚曄子
あの時世界は　NHK取材班編
明治の人物誌　星　新一
私の鎌倉案内　樋口清之
心臓病の百科　保健同人社
昭和の作家たち1　小田切秀雄
〃　2　〃
俳句鑑賞十二ヶ月　水原秋桜子
西鶴物語　浅野晃〔共〕編
黒いレンズ　黒岩重吾
地方自治法入門　小高剛〔等〕著
岩波六法全書　乾昭三〔等〕編
労働法小辞典　松岡三郎編著
新中国の素顔　阿部徹雄
英語学習総合事典　旺文社編
離　婚　色川武大
原色果樹の病害虫防除　梅谷献二〔等〕著
補助金と農業農村　今村奈良臣
日本染織辞典　上村六郎〔等〕編
現代ビジネス金言集　扇谷正造
世界のトップレディ　下村満子
兎の眼　灰谷健次郎
二足のわらじのすすめ　中村武志
特許の出願　紋谷暢男〔共〕編
歌謡曲のすべて　浅野純編
現代日本美人画全集　飯島勇執筆
ほか五十四冊

◇児童図書◇

笛ふき岩　太田大八
地球のなぞをさぐる　小森長生
ぼくのつくった温度計　山崎正勝
名前のある数　遠藤一夫
とかして遊ぼう　中川直哉
さかなの食事　佐原雄二
ほんとかなほんとかな　多田ヒロシ
面積のひみつ　関沢正躬
アンデスに宇宙線を追う　藤本陽一
ひなたやまゆうびんきょく　小沢良吉
小さな天子　米山京子
ぶたたぬききつねねこ　馬場のぼる
ほか十冊

一坪図書館開館

地区　館主　開設時間
法能　瀧口喜雄　日曜日午前九時～正午

子ども図書館

六月二日（土）午後一時三十分
市立図書館児童室
紙工作とお話会

都留文科大学入学式

昭和54年度都留文科大学入学式が、4月10日(火)午前11時から同大学体育館で行われました。大田学長の「新入生を迎えることば」、市長の祝辞に続き、新入生の宣誓があり、在校生による奏楽のうちに、初等教育学科294名、国文学科142名、英文学科141名の合計577名が新たに学園生活の仲間入りをしました。

郷土のしおり

近世〔7〕

漆桶がこのように大量に必要とされたことは、漆の生産が山国であったこと、貴重なものであったことがわかり、割当が相当にあり、

鳥沢村　大豆四石
和見村　大豆二斗五升

であり最高と最低ではこのようなちがいがあった、ただ村の規模の多少にもよるものと考えられるし、このほかに青柿を上納した記述があり、

朝日小沢、下初狩、吉ヶ久保、黒野田、大月、駒橋、殿上、猿橋、花崎、真木、浅川、強瀬、岩殿、畑倉、奥山、奈良子、林、駒宮、葛野、下和田、宮谷、鳥沢、小沢、藤崎、綱野上

など二八の村々におよんでいるのである。

この柿から渋をとることで、医薬の材料としてもひろく使われ糸また紙帳（保温のための紙の紋帳）包装紙などの用途にもさかんに使われ、青いうちにとりこれをくだいて水につけて保存すると渋汁がとれた、この柿の木は田野倉、大月など中心で裏庭などへ植えられており、青いうちにとつたものと思われる。

秋元氏時代にもこの柿の植樹が奨励されて川越へ移封されたときも、この地方の柿の木を当地へ移してその地方への柿の普及がはかられたと伝えられているように、その用途は多方面にわたっていたようだ。

これより以後、農業の生産が多様化してゆくなかで町人層の進出によって四木（桑、茶、楮、漆）三草（紅花、藍、麻）などの換金作物がつくられて、それらをもとにした工業化がすすめられてゆくことになる。

〔羽田富士男〕

電報電話局からのお知らせ

いつも、電報電話のご利用をいただきありがとうございます。

さて、皆さまに電話料金のお支払い、電話のお申し込み等でご利用いただいております営業窓口の開設時間を去る4月16日からつぎのとおり変更させていただくことになりましたのでお知らせいたします。

平　日　午前9時から午後4時まで
土曜日　午前9時から正午まで

なお、電話での受付は従来どおりです。

平　日　午前8時30分から午後5時まで
土曜日　午前8時30分から午後0時30分まで

都留電報電話局
電話3－2991
（着信無料）